



向陵広場

発行号 第207号
発行日 令和8年10月30日(金)
発行元 向陵編集校友会
責任者 伊藤有司(県商10回卒)

「銀」 愛知・名古屋アジアパラ大会卓球男子シングルの立位 クラス7
八木克勝 県商58卒(平成21年3月) 電通デジタルに所属
中日新聞 2026年10月21日(水) 朝刊 県内版

八木選手 勇気と粘りの「銀」卓球連覇逃す



「そう簡単には勝たせてくれない相手だった」。東京とパリのパラリンピックで連覇した強敵との死闘を終え、八木選手は悔しげな表情で言葉を絞り出した。

パラ日本代表として12年にわたって活躍。2023年の杭州アジアパラ大会で優勝した後は引退を意識したこともあった。しかし、無観客試合だった21年の東京パラリンピ

決勝で中国選手と対戦する八木選手。スカイホール豊田で

ツクで9位に終わった無念が頭から離れなかった。有観客の地元開催に「ここでしたら果たせないものがある」と再び闘志を燃やした。

会場のスカイホール豊田には小学生ら大勢の観客が来場。準決勝と決勝を通して「八木選手、頑張れ!」と声援を受けた。試合後、客席の様子を思い返して「障害があっても一歩踏み出す勇気と粘る姿を子どもたちに見せることができたかな。この場所

中日新聞 2026年10月20日(火) 朝刊 県内版

卓球 八木選手、準決勝へ 連覇へ強力な味方

昨年の国際大会で敗れた強敵にこの日、雪辱を果たした。「100%自分が主導権を握るんだ、という強い気持ちを一瞬も抜かなかった」。スカイホール豊田での準々決勝後、八木選手は目に涙を浮かべ勝因を振り返った。

東京の企業に所属しながら、豊橋市を活動拠点に連覇を目指してきた。地元にとどまる理由は、健康者で同年の強力な練習パートナーの存在だ。

市立本郷中の卓球部で競技を始めた。当時から大会などで顔を合わせていた伊豫田(いよだ)敬祐さん(35)と約10年前に再会。意気投合し、一緒に練習する

練習相手は豊橋の同学年 社会人選手



練習後に八木選手と談笑する伊豫田さん。豊橋市の豊橋市障害者福祉会館で撮影。

ようになつた。

社会人選手としてプレーする伊豫田さんは、どんなに強い球もはね返す高い技術を持つ。八木選手は生ま

く、握力は左右とも10歳ほどしかない。多いときは週4日、練習で打ち合ったことで、腕の短さを補うフットワークが鍛えられた。コートワークを付けず自己流で技を磨いてきた努力に感心し、伊豫田さんは「野性の日本代表」と表現する。

伊豫田さんは「前回王者のプレッシャーもあると思うが、残りの試合も1球1球楽しんで」とエールを送る。

八木選手はいっそう気を引き締めた。「期待していると思うので、なんとか金メダルを持って帰りたい」。戦友の力も借り、20日のメダルマッチに臨む。

(石川愛理)

試合ができ、メダルを取れてすごく幸せだった」と話すと、涙がほおを伝った。

2年後のロサンゼルスパラリンピックは「まだ考えられない」と答えるにとどめたが、今後も大会への出場は続ける予定だ。「技術的には限界があるが、気合だけは伸びしろがある」。不屈の精神で、いつもの晴れやかな表情を取り戻した。(石川愛理)



男子シングルス(立位7)準々決勝
朝鮮選手と対戦する八木選手。スカイホール豊田で